

市歌に関するアンケート調査結果

1 調査目的

静岡市では、平成17年4月に政令指定都市に移行した際それを記念し、合併後の旧静岡市・旧清水市の市民が共に新しい市への誇りや愛着、市民としてのより強い一体感を感じることが出来るようにとの目的で市歌「わたしの街静岡」を作成した。

現在では旧蒲原町・由比町との合併を経て人口70万人超の大都市となり、一層の一体感の醸成のため、市歌にはさらに果たせる役割があると考えているが、市歌の市民への浸透度や、日頃どのように親しまれているのかが不明なため、今回のアンケートにより現状を把握し、真に親しまれる市歌とするための施策を考える参考にしたい。

2 調査対象

市政アンケートモニターとして委嘱した市内在住の男女100人

内 訳：

性別	男性	女性
人数	42人	58人

年代別	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	8人	31人	28人	11人	12人	10人

3 調査方法

インターネットによるアンケート調査

4 調査期間

平成23年9月27日（火）から平成23年10月11日（火）まで

5 回収件数

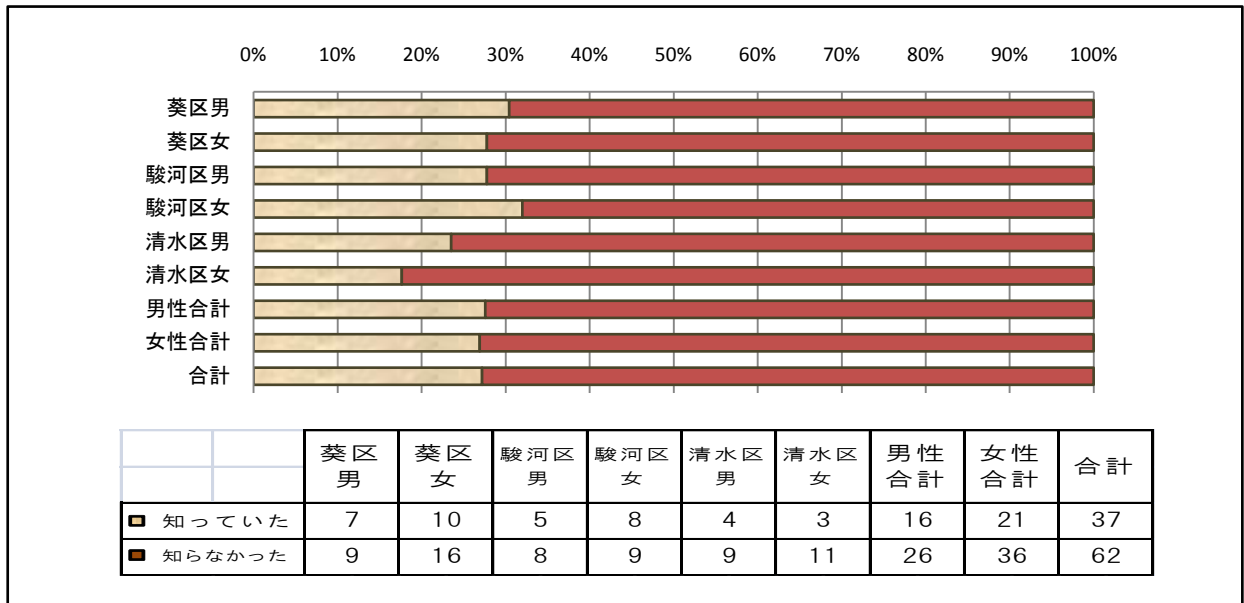
99件（回収率99%）

6 担当課

経営管理局 行政監理部 行政管理課

問1. 静岡市に市歌があることを知っていましたか。

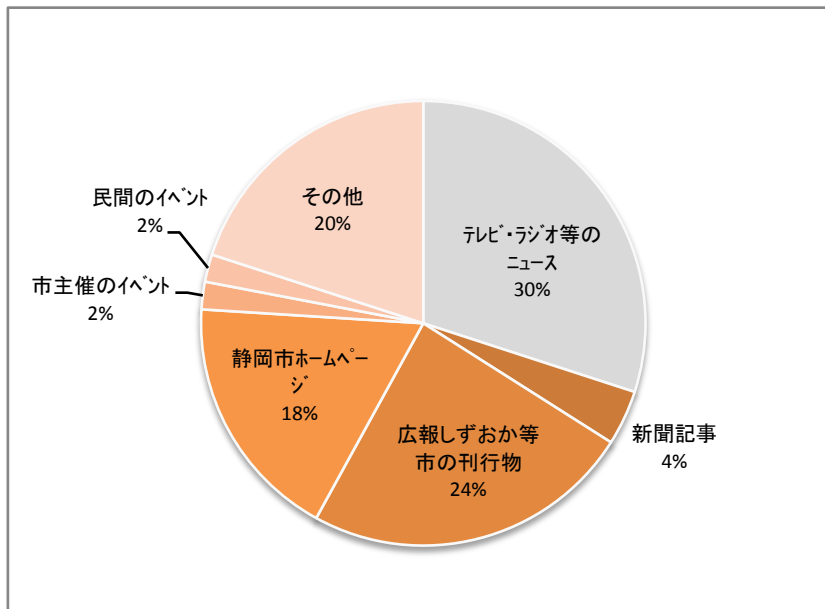
知っていた	37人	37%
知らなかった	62人	63%



■ 考察

全体の6割強が市歌の存在を知らない。男女差は見られないが、清水区民で特に、知らない人の割合が多く目立っている。

問1-補問（知っていたと答えた方に質問）市歌について知ったきっかけは何ですか？（複数回答）



テレビ・ラジオのニュース	15人
新聞記事	2人
広報しずおか等市の刊行物	12人
静岡市ホームページ	9人
市主催のイベント	1人
民間のイベント	1人
その他	10人

◆ その他の回答内容

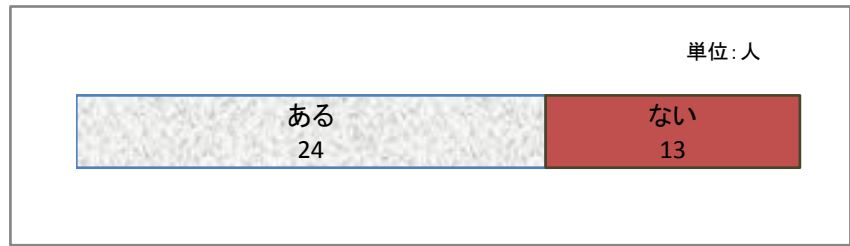
- ♪ 広報しずおかのCMで聞いた
- ♪ 市庁舎で流れているのを聞いて
- ♪ 小学校の音楽の授業で習った
- ♪ 友人・知人から聞いて

■ 考察

市歌について知ったきっかけは、テレビやラジオ、新聞、または広報しずおか等市の刊行物からとの回答が6割以上で高い比重を占めている。作成時や改定時のニュースを耳や目にした人が多いと思われる。それに次いで多いのが「市のホームページ」という回答であるため、今後市歌をアピールする媒体として積極的に利用していきたい。

問2. (市歌を知っていた人に質問)今までに静岡市歌「わたしの街静岡」を聞いたことがありますか。

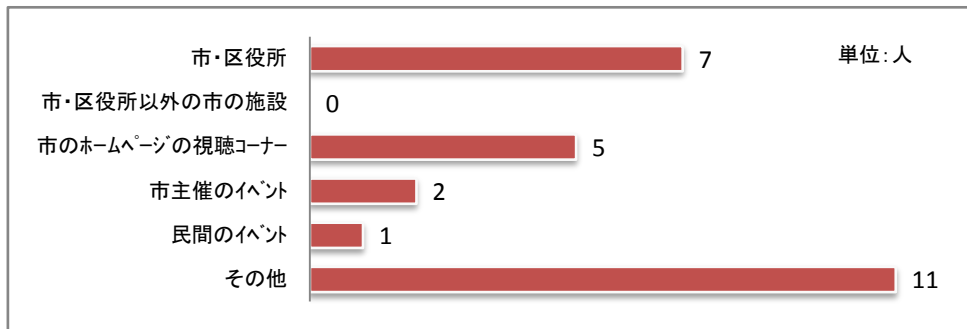
ある	24人	65%
ない	13人	35%
計	37人	



■ 考察

市歌の存在を知っている人の6割以上が市歌を聞いたことがある。市歌の歌詞や曲まで知ってもらうには、身近に聞く機会を増やす事が大切だと思われる。

問2-補問 (聞いたことがあると答えた人に) 市歌をどこで聞きましたか。



◆ その他の回答内容
♪ 広報しずおかのCM
♪ テレビ、ラジオの番組

■ 考察

市庁舎への来庁時などに聞いたという回答が多い。その他、テレビ・ラジオでの広報しずおかのCMや情報番組があげられていた。「市・区役所以外の市の施設」という回答が0なので、身近な生涯学習施設などで流すことも検討する必要がある。

問3. あなたは静岡市歌を利用したことがありますか。

ある	0人
ない	37人

■ 考察

「ある」という回答はゼロだった。現状では地元の老人会や趣味のサークルでの利用を理由としたCDの配布・貸出が多いのだが、あまり広い範囲では市歌が利用されていないことがうかがえる。

問4. あなたは、市歌のCD及び楽譜が借りられること(または団体として配布を受けられること)を知っていますか。

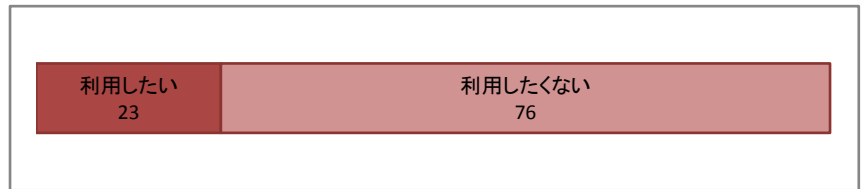
知っている	1人	3%
知らない	36人	97%

■ 考察

市歌のCDや楽譜の貸出・配布を行っていることは、市のホームページにも掲載しているが、結果をみるとほとんど認識されていない。ホームページでは、もっと目立つように掲載する事や、他媒体を使用しての広報など、より多くの市民に知ってもらう工夫をしていく。

問5. 今後、静岡市歌を利用したいと思いますか。

利用したい	23人	23%
利用したくない	76人	77%

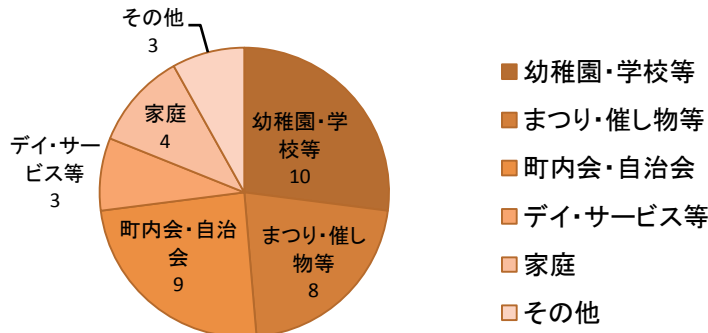


■ 考察

市歌のニーズを知るためこの設問を設けたが、「利用したくない」が7割以上であった。

「利用したくない」のではなく、利用する機会がないという回答もあったので、どのように利用出来るかなどの情報提供を併せて行うことが普及には必要である。

問5-補問(利用したいと答えた人に)どのような機会や場所で利用したいですか。



◆ 幼稚園・学校等 10件

【機会】 朝の音楽、掃除の時間、運動会、学芸会、セレモニー、県民の日など

【方法】 バックグラウンドミュージックとして流す、合唱

【意見】 子どもに覚えさせてはやらせる。

自然に耳に残るような感じで流す。

幼い頃から歌った方が覚えるし、愛市精神を持つことが出来るし、本当に静岡市の姿が見える。

◆ まつり・催し物等 8件

【機会】 静岡まつり、秋祭り

【方法】 合唱、BGM、開会式で流す、集客音楽

【意見】 市民が集まる場所で、みんなで歌う。

市内で行われる行事だから当然に歌われても不思議ではないし、歌われるべきであると思う。

◆ 町内会・自治会 9件

【機会】 会合、町内運動会、親睦会、夏祭り、レクリエーション、その他催し物

【方法】 合唱、BGM、

【意見】 初めに市歌を合唱する。

静岡市人は、隣や町の一員である自覚があまりないのは大変不思議に思える。そんなに大きな町ではないのに不思議。

◆ デイサービス等 3件

【機会】 朝の歌、帰りの歌、健康体操

【方法】 合唱、嚙下体操曲、手遊び歌

【意見】 みんなで合唱出来たら楽しいと思う。

◆ 家庭 4件

【意見】 NHKやSBSなどの公共の電波に乗れば聞く機会が増える。

是非この機会に一度聞いてみたい。

子どもと一緒に歌う。

静岡市民として是非覚えて口ずさんでみたい。とても爽やかな感じで素敵な曲。

◆ その他 3件

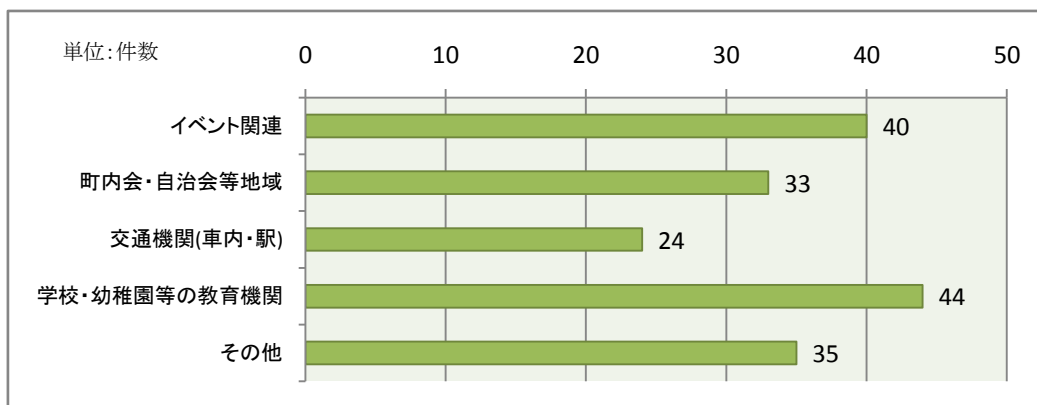
【意見】 他県の人に静岡を紹介するときに聴かせたい。

国際交流イベントなどで使う。小学校でも年に1回くらい流せば郷土愛につながるのでは。市歌があることは知っていたが、まだ聞いたことがないので一度聞いてみたい。

■ 考察

市民が自発的に市歌を使う場合、どのような場合なら使いやすく、使ってみようと思うのかを尋ねた質問。デイサービスでの嚙下体操や手遊び歌での利用、地域の会合でのBGMや出席者で合唱をするほか、祭りやイベントのBGMや集客音楽としての利用など、工夫次第で様々な機会に利用してもらえる可能性がある。また、学校のようなシーンでBGMとして使用してまず子どもたちに親しんでもらい、その子どもたちの成長に従い市民に浸透・定着するものになっていくのでは、との意見が多かった。

問6 現在、市歌の普及のため市・区役所で朝・夕市歌を流すとともに、静岡市ホームページへの掲載、CDや楽譜の貸出し・配布を行っています。経費をかけずに普及させるアイデアがありましたらご記入下さい。



☆ イベント関連 ☆ 意見40件

【機会】

- 静岡まつり。秋の大道芸ワールドカップ。呉服町で度々行われる商店街のイベント。地域のまつり。花火大会。青葉通りのイベント。市民マラソン。
- エスパルスの試合でパルちゃんショーでパルちゃんに紹介してもらおう。辻尾ジャパンに紹介してもらおう。マリパルで番組を持っている岩下選手に紹介してもらおう。

【方法・意見】

- 各機会にBGMにする(頻繁に流す、恒例にする等)
- CDを配るなどして、使う機会を増やすよう働きかける
- 市歌があることも知らなかった。イベントや公共の場所で、市歌の存在を積極的に知らせる
- イベント会場で、子どもたちに歌ってもらおう
- 待ち時間などにBGMとして流すと自然に耳に馴染むと思う
- 踊りをつけて、イベントのとき踊ってもらおう
- 市歌振り付けコンテスト。市歌合唱コンクール
- 閉会の合図(蛍の光にかわる物)にする
- 民間の行事にも積極的に働きかけていく。市歌を知っているのが当然の雰囲気作り不足
- 各種イベントの開催前に市歌を流し、そこで市歌を説明する
- 市の主催の時は、始まる前に作曲者の名前を言い、インパクトを与えてから市歌を流すと自然と頭に残ると思う
- 駿府マラソンでも会場で流すとか、折り返し地点等、途中でも流す、出来れば生演奏してもらえると盛り上がる
- メロディーだけ流すバージョンも作って、お祭りなどのさりげないBGMに流し、親しみを持ってもらう
- 盆踊りなどでも使えるバージョンを作る

■ 考察

イベント等人が多く集まる場所で、市歌のPRをすべき(「流す」のみならず「説明」や「宣伝」をする)という意見が多かった。

☆ 町内会・自治会など地域 ☆ 意見33件

【機会】

- 地域の行事。夕方5時の鐘。自治会のまつり。資源回収BGM。ラジオ体操など人が集まる場所。地域の運動会(町民大会)。老人会の会合。町内会の総会。回覧板の表紙。

【方法】

- 式次第に取り込み、必ず流したりみんなで歌うようにする
- 定時音楽(昼0時、夕方5時の鐘)の音楽を市歌にする
- 回覧板の表紙に目立つように印刷する
- 地域の運動会で、体操の曲などに使ってもらう
- 駅南商店街のセッシャーワン、スプラッシュ星人に普及のお手伝いを頼む
- 廃品回収の案内をする宣伝カーのBGMとして
- 同報無線放送のイントロにする
- 楽譜の回覧・配布をする
- 図書館や地域の公共施設に配布コーナーを設ける

■ 考察

定時の音楽にするという意見が多かった。実現出来れば、メロディーだけでも知ってもらえる効果は大きい。また、地域の回覧版を使って楽譜を回覧したり配布したりというのも、簡単で効果的な方法なので検討したい。

☆ 交通機関(車内・駅) ☆ 意見24件

【機会】

- 静鉄やJR。土産物店。横断歩道。バスのアイドリングストップ時。

【方法・意見】

- 構内で定期的にBGMとして使用する
- 電車の発車メロディーやホームに入る時の音楽にする
- うなぎパイを売っている店で、うなぎパイの歌のCDの横に市歌CD、宣伝広告を置かせてもらう。小椋佳を大きく取り上げる。
- 車内や駅構内で流す。多くの人に聞いてもらえる機会を作ることが大事
- 朝の通勤時間帯に流れるとさわやかな感じになると思う
- 駅で10分おきくらいに流すといつの間にかロズさんでいるような感じになるのではないかな。旅行で来た方にも印象付けになるのでは
- 信号機が青の時に流れる曲を市歌にする

■ 考察

分類の中で、一番実現は難しそうだが、効果は大きそうな項目。中でも横断歩道の音楽にするとか、駅構内で流すなどは効果的と思われる。できるだけ「多くの人に聴いてもらえる機会を作る」ように、方法を考えていきたい。

☆ 学校・幼稚園などの教育機関 ☆ 意見44件

【機会】

- 運動会。学校祭。音楽の授業。校内放送。地域に関する学習の一環。給食の時間。掃除の時間。入学式・卒業式。下校の合図。学校集会など。

【方法・意見】

- 各機会にBGMとして流す。市役所だけでは聞く人は少ないが、学校で流せば小さい頃から耳に残るのでは？
- 校歌と一緒に授業に取り入れるなどして覚えて歌う。
- 編曲して運動会の行進曲として使用する。入学式・卒業式に校歌と併せ父兄と共に歌唱する(父兄には歌詞プリントを配布)
- 授業で習うのが最も効果的。ただしそこまでして市歌を利用する必要があるのか疑問
- 学校で習えば子どもたちが大人になった時覚えている
- 合唱コンクールの課題曲とする
- 音楽の授業に取り入れる。静岡出身者は帰属意識が強いと聞いているから
- ゆったりとした曲なので、手話などをつけて手話自体も広めるというオプションをつけてもいいのでは。歌は数回で覚えられるけど、手話なら何回も練習するし子供も真剣にやれる

■ 考察

前述したように、子供達に知ってもらうことで浸透していくという意見がとても多い。なかでも「地域に関する学習の一環で利用してもらう」という意見は、自然なかたちで市歌について知ってもらえる良い機会になるのではないかと思った。

☆ その他 ☆ 意見35件

【方法・意見】

- 公共施設で誰でもいつでもボタンスイッチで聞けるようにする
- 図書館の開館・閉館時、昼食時のチャイムのかわりに流す
- 広報誌で市歌のあることを紹介し、CDや楽譜の貸出等PRすれば、市民が関心を持つと思う
- 市のホームページを開くと市歌が勝手に流れるようにする
- 清水銀座商店街のBGMにする
- とにかく存在を知ってもらうことが先決
- 図書館にCDがあることを知らない人が多いと思うので図書館館内でPRする
- 市立病院の待合室で流す
- 音楽を流すだけなら経費はかからないので、市が主催するすべてのイベントで流すべき
- テレビ・ラジオCMの使用増加
- ごみ収集車のメロディー
- 区役所、生涯学習施設、図書館、児童館、児童クラブ、子育て支援センター、老人憩いの家、ハートピアなどでBGMや閉館10分前の音楽として使用する
- 栃木SCが栃木県民の歌をサポートや監督が歌ってから試合を始めているので、同じようなことを清水エスパルスのホームゲームの時にやったらいい。それと民放のオープニングとクロージングの時に流す(群馬テレビ、とちぎテレビなど使用事例あり)
- 庁内電話の保留音
- FM-HI! で流す。ラジオでよく静岡市からのお知らせとか警察署など公共のコーナーがあるようなので
- 小椋佳のうなぎパイの歌の直後に市歌(小椋佳ver.)を流す。うなぎパイの歌は子どもはみんな大好きでリリで歌っている。1週間もあれば覚えてしまう
- テレビや新聞等で市歌のあることを報道すれば、市民の多くに関心を持ってもらえるのではと思う。さらに市民の希望者にCDの無料配布を検討しては
- 市のホームページから聴こうとしたら、何らかのソフトが必要なようだった。もっと簡単に聴ける方法(You tubeで聴けるとか!)を検討してはどうか

■ 考察

その他意見では、市・区役所以外の市の公共施設でのBGM利用や市歌の宣伝、広報誌への記事の掲載市のホームページのBGMにするといった意見が多かった。

問7 市歌に対する意見・要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

【市歌そのものについて・肯定的意見】

- ・ソフトな歌で、静岡が優しく気候温暖で住みやすいことが感じられて素晴らしい市歌となっている。
- ・ピンクレディーのミーさんも歌っていたと思うし、もっと誇っているいろんな場所で活用したほうがいい。(県の歌の方がよく流れている)
- ・誰が聴いてもいい歌だと思うので、市民が聴く機会を多くすることで、もっとファンが増えると思う。公共の電波にもっと乗せてほしい。
- ・とても馴染みやすく出来ていて好き。
- ・いい歌なので認知度が上がれば市民に気に入られる歌だと思う。小椋佳を前面に押し出すべき。まずはどんな手段でも市民の耳に入れる。とにかく何回か聴かせればすぐに耳に残る歌だと思います。
- ・音楽パレード時、お祭り時、機会あるごとに警察音楽隊や市内の吹奏楽部などに演奏してもらったらどうか。詞が素敵で覚えやすいと思うので、今後デイサービスでも取り入れてみようと思う。
- ・さわやかなメロディーで大変よいと思う。
- ・ゆったりとした感じで、静岡っぽさが出ていると思った。
- ・ポップス調の歌いや曲なので、もっともっとアピールして広めてほしい。
- ・今改めて市歌を聴いてみたがとてもいい曲だと思う。いろいろな場所で流していけば、市民に広まるのではないか。

- ・せっかく良い歌なのにあまり知られていないのはもったいない。市のホームページでもっと大きく市歌をアピールしてもよいと思う。

【市歌そのものについて・否定的意見】

- ・自分が小学生の時(20年以上前)にも市歌があり歌っていた。自分にとってはその曲(ふるさと静岡)に愛着があるし、今でも静岡市歌だと思っていたので残念。
- ・歌詞もメロディーも心に残らないので覚えられない気がする。
- ・今の市歌は優しく耳に届いて好きだが、子どもや若者を対象に考えた場合どうなんだろうと思う。幼稚園児から小学校の子供達にも歌いやすい歌詞とメロディーだろうか。
- ・贅沢を言えば、性別、年齢問わず共感できるものに進化してほしい。
- ・市歌がださいので変えればよいと思う。いい歌は世代を超えて歌われる。

【市歌の必要性】

- ・市歌の存在が市民にとって、さほど重要なことでもないと感じている。
- ・いらぬと思う。
- ・個人的には市歌が不要だと感じている。4年経過しているにもかかわらず、普及・周知されていないの
がいい証拠だと思う。一体感醸成が市歌でなくてもいいかと思う。ただしもう存在しているのであれば
無駄にはしたくないという思いもある。
- ・市歌に対して思い入れも必要性もあまり感じていないので消極的な回答になった。個人的には市歌は
あればそれにこしたことはないが、それほど必要性があると感じていないのが実感。
- ・市歌があっても自ら覚えようとは思わない。国歌もあるし、幼稚園や学校で校歌があるからそれで
十分では。
- ・郷土愛は必要だと思いますが、市歌という形での発露が必要かという疑問が残る。歌は覚えるのに
時間がかかる。その歌が魅力的な歌ならともかく、そうでないのならあえて市歌を利用する必要は
ないのでは、と思う。
- ・市歌の必要性は全く感じないが、普及させるなら、地域行事での使用ならいいのではないかと思う。
イベントや交通機関など、市民以外の不特定多数の人が集まる場所では、関係ない人にとっては邪魔な
ものでしかない。でも普及するとは思えないし、市歌の果たす役割はないと思う。役割について
何があると考えているのか、アンケートの冒頭に記してほしい。
- ・必要性がよくわからない。

【市歌の普及について】

- ・知人や身内で知らない人が多い。うるさいくらいに流さないからだと思う。
- ・市歌の情報を広報に載せて知らせることで、市民にわかる。一度聴いてみたいと思う。
宝の持ち腐れにならないように、市歌で活気に
溢れた街づくりにしてほしいと思う。
- ・普段聴く機会がないので、まずは聴く機会を増やす事が重要。
- ・島田歌穂さんが歌う県歌ラジオで毎日流れて頭に入っていくので、市歌も毎日ラジオで流せば覚えて
もらえると思う。
- ・静岡市民歴2年だが存在を全く知らなかった。愛知で育ったので同報無線にも驚いたが、せっかく
そのような仕組みなら、そこで流すのも耳に残る方法では。
- ・是非利用したいというほど聴きほれていないのが現状。もっと時間帯を決めて流せばどうか。静岡市
には12時の音楽がないので、12時の音楽にしてはどうか。
- ・まだ十分に市民に徹底していない。自治会の回覧板で、各家庭に知らしめた方がいい。
- ・市歌があることも知らなかった。

【市歌の認知度について】

- ・小椋佳さんの歌は素晴らしかったけれど、市歌があることを知らない人がほとんどだと思う。小さい
頃から静岡についての学習をして、その中で市歌を歌ってもらえるようにすると、自ずと年を
とって知っている歌になれると思う。
- ・あまり知られていないと思う。何かの機会に聴いてみたいとは思っている。
- ・全く存在を知らなかった。耳にする機会を増やして慣れ親しむことが第一。
- ・市歌を知らない人は意外と多いような気がする。いろんな市の行事を通してもっと啓蒙活動をする
必要がある。
- ・市歌があることを知らない市民が多数いる。もっと積極的にPRをして活用を勧めることが必要。
市のホームページを見るのがあっても、「市歌」については気がつかなかった。

- ・今まで市歌があることを知らなかった。家族からも聞いたことがないので普及率はかなり低いのではないかと。今現在市民があまり知らない市歌をイベントで使っても、即普及するとは思えない。まずは子供たちに覚えてもらい、少しずつ父兄にも普及し、子供たちが大人になるにつれて当たり前のように静岡市民に市歌が浸透するのではないかと。
- ・市歌があることは知っていたが、誰が作曲したのかどんな歌なのかは今初めて知った。いろいろな所でもっと宣伝したほうが良い。

【その他市歌についての意見】

- ・身近に聴けるようになれば親しみもわくでしょう。
- ・国歌や富士山の歌のように静岡市民に親しまれるとよいですね。
- ・小さい時からなじめるような工夫が必要。
- ・内容が違っていれば学校の式典でも使用できると思う。我々は国歌を始め、式典でそのような歌を歌うのは嫌いでないと思う。
- ・市歌に対して関心のある人は少ないと思う。また歌いたいと思っている人も少ないと思う。教育機関・地域・イベントなどで市歌をどんどん使っていくことだと思う。
- ・学校の校歌のように、いつもは歌わなくても市民が広く歌おうと思えば歌えるようにしておくことが肝要。各家庭でいつでも気楽に何度でも聴けるような、また口ずさめるような配慮をしてはどうか。
- ・著名人を起用することで税金の無駄遣いにはなっていないか？と疑問に思った。
- ・アピールしなければ、無駄銭使って作られたと批判が出る。市民に、歌詞はともかくリズムくらい知ってもらうのが当然。
- ・有名人に頼んで、お金をかけて製作するのならば、それ以前に目的や用途を考えて作った方がいい。
- ・無理に広めなくても自然体で広まればいいのではないかと。無理にお金をかけて広める必要は全くないと思う。
- ・市歌が定着すれば、市への愛着がわくと思う。
- ・せっかくあるのだから、市民全員が歌えるくらいにしてほしい。
- ・長野県民は全員が県歌を歌える。自然状況が厳しいし、心身ともに幼い頃から人との関わりが徹底していると思う。静岡県はのんびりしていても何とか生きていけるから、徹底しなくてもいいのかも。
- ・市民が老若男女問わず誰でも自分の母校の校歌のように市歌を口ずさめるようになれば、静岡市民としてもっと絆が深まり、いざという時でも団結力が今以上に発揮されるのではないかと。是非積極的な普及推進をお願いしたい。

【その他】

- ・沿岸部の津波避難ビル、避難塔の整備を急ピッチで進めてほしい。新築される清庵地区市立高等学校は4階建て以上で屋上がある校舎にしてほしい。住民の避難ビルとして使用するため。清水は海拔が低い。
- ・東日本大震災後、必要だと感じるのは歌ではなく、地震に関する情報が、自分から調べなくてもどんどん入ってくるような状況がほしいと感じている。静岡市民は地震に対する意識がたかいのだから、もっと具体的にいろいろな情報を知ることができたら真剣に受け止めるし、二次災害も防げると思う。地震に備えることによって、地域ごとの一体感も生まれるのでは。
- ・合併前の清水との整合性はどうか。

■ 考察

市歌そのものについての印象の良し悪しは、世代や、市歌を必要と思うかどうかによって左右される。市歌の必要性を感じないという意見も多くあったが、認知度や浸透度が進んでいけば変わってくる可能性はある。問7は自由意見を求めたものだが、普及の方法について熱心に意見を述べてくれる人が多く(一部は問6の普及方法意見の集計に組み入れた)、決して無関心なわけではないことが伺えた。

「静岡市民に親しまれる」「自分の母校の校歌のように誰もが口ずさめる」歌になるよう、ぜひ積極的な普及方法を考えていきたい。

□ 総括

今回のアンケートは、新しい政令都市としての静岡市に市民が誇りや愛着を持ち、また市民としての一体感を感じられるようにとの目的で制定された市歌「わたしの街静岡」の、現在の市民への浸透度を把握し、本来の目的通りの役割を果たせるような施策を考え、実施する参考とするために行ったものである。市歌の、現在の市民への浸透度は低いと言わざるを得ないし、存在そのものに疑問を感じる人も多かった。

しかし今後、今回の調査結果を活用して市歌の存在を積極的にアピールする方法を検討し実施していくことで、市歌が、市民に親しまれ、本来の目的を果たす存在になるよう努めていきたい。